

強い農業づくり交付金 事業について

【事業内容】

国産農畜産物の安定供給のため、生産から流通までの強い農業づくりに必要な共同利用施設の整備等を支援。

【補助対象】

① 共同利用施設等整備

乾燥調製施設、集出荷貯蔵施設、農産物処理加工施設、生産技術高度化施設、家畜市場、畜産物処理加工施設、小規模土地基盤整備、飼料作物作付条件整備等

② 卸売市場施設整備・売場施設、貯蔵・保管施設、駐車施設、搬送施設、衛生、情報処理施設等

【交付率】

都道府県へは定額（事業実施主体へは事業費の1/2以内等）

【事業実施主体】 都道府県、市町村、農業者の組織する団体、事業協同組合等

交付先： 国 ⇒ 都道府県

【支援メニュー】

- 1 産地収益力の強化 各品目の生産性向上等の取組に必要な共同利用施設の整備を支援
- 2 産地合理化の促進 産地の集出荷、処理加工体制の合理化に必要な共同利用施設の再編等を支援
- 3 気象災害等リスクの軽減 気象災害等産地を弱体化させるリスクの軽減に必要な共同利用施設（被害防止施設等）の整備を支援
- 4 食品流通の合理化 安全で効率的な市場流通システムの確立に必要な卸売市場施設の整備を支援

平成25年度強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）実績の概要					
市町名	地区名	事業主体		事業実施期間	
三豊市(観音寺市・善通寺市)	三豊・観音寺・善通寺地区	香川県農業協同組合		平成25年度 (平成24年度繰越)	
事業計画の概要					
<p>(課題)</p> <p>三豊みかん共同撰果場は、柑橘の主産地である善通寺市、三豊市並びに観音寺市から広域集荷して、JA香川県の約5割を共同選果している。</p> <p>柑橘は、平成11年度に設置した非破壊式選果機は、設置後13年を経過し、高品質果実の選果精度が低下するなど実需者ニーズへの対応が遅れている。</p> <p>特に、温暖化で問題となっている生傷による品質劣化は、現在の選果機や目視では判別できないため、消費地到着後に腐敗ロスが発生し、契約取引を行う際の支障となっている。</p> <p>また、各生産者ごとに生産履歴を整備しているが、出荷容器に識別表示しておらず、実需者までトレーサビリティが構築できていない。</p> <p>これらにより、ブランド化の向上や契約取引の拡大が困難な状況となっている。</p> <p>(事業内容)</p> <p>以下のとおり、選果機の機能強化を行い、果実品質を安定させることで、消費者（実需者）ニーズに対応した高品質果実を「ふる一つ物語」等としてブランド化を進めるとともに、県内外の実需者との契約取引を増やし、産地の更なる発展を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生傷を検出できる非破壊式選果機に機能強化することで、果皮の生傷を可視化及び糖度や酸度の測定精度が向上し、安定した品質の果実が出荷できるようになる。 ・生産者、品種など生産者情報や選果日時を出荷容器にバーコードとして表示することで、産地から実需者に至るまでのトレーサビリティシステムを構築する。 					
施設整備計画					
※添付書類：写真					
整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
柑橘 集出荷貯蔵施設	535	870	203,362,358	96,839,000	集出荷貯蔵施設 ・非破壊式選果機 9条 ・トレーサビリティシステム 1式
期待される効果の概要					
項目	24年度 (現状値)	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	29年度 (目標値)	概要
ブランド産品の出荷割合の増加	2.3%	8.6%	7.1%	11.4%	ブランド産品の出荷割合を9.1%増加
契約出荷割合の増加	22.1%	34.0%	52.5%	37.1%	契約出荷の割合を15.0%増加

平成25年度強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
丸亀市	飯南地区	香川県農業協同組合	平成25年度

事業計画の概要

（課題）

坂本共同撰果場は、桃の主産地である丸亀市飯山町及び綾歌町から集荷して、JA香川県の約5割を共同選果している。

選果場に設置している「レーザー型」非破壊式選果機は、設置後11年を経過して老朽化が激しいほか、果実内部を直進透過したレーザー光の波長を解析する方式であるため、部分的な測定にとどまる。

また、温暖化で問題となっている果実硬度の低下や内部褐変は、現在の選果機や目視では判別できないため、消費地到着後に腐敗ロスが発生し、契約取引を行う際の支障となっている。

また、各生産者ごとに生産履歴を整備しているが、出荷容器に識別表示しておらず、実需者までトレーサビリティが構築できていない。

これらにより、ブランド化の向上や契約取引の拡大が困難な状況となっている。

（事業内容）

以下のとおり、選果機の機能強化を行い、果実品質を安定させることで、消費者（実需者）ニーズに対応した高品質果実を「さめき讚フルーツ」としてブランド化を進めるとともに、県内外の実需者との契約取引を増やし、産地の更なる発展を目指す。

・「近赤外線型光センサー」及び「高精度カメラ」の非破壊式選果機に機能強化することで、果実内部の糖度を均一に測定するとともに果実硬度や内部褐変の可視化により、安定した品質の果実が出荷できるようになる。

・生産者、品種など生産者情報や選果日時を出荷容器にバーコードとして表示することで、産地から実需者に至るまでのトレーサビリティシステムを構築する。

施設整備計画

※添付書類：写真

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
桃集出荷貯蔵施設	70	150	104,780,565	49,891,000	集出荷貯蔵施設 ・非破壊式選果機 1条 ・トレーサビリティシステム 1式

期待される効果の概要

項目	24年度 (現状値)	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	27年度 (目標値)	概要
ブランド産品の出荷割合の増加	2.7%	25.7%	13.2%	12.7%	ブランド産品の出荷割合を10.0%増加
契約出荷割合の増加	5.2%	11.8%	21.9%	20.6%	契約出荷の割合を15.4%増加

平成25年度強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
綾川町	綾川南部地区	香川県農業協同組合	平成25年度

事業計画の概要

（課題）

当地区は、従来から良食味米産地として水稻栽培を行っているが、近年の生育期間中の高温傾向により、主力品種である「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」で白未熟粒等が多発し、品質低下が課題となっている。

また、山間部ではカメムシの多発に起因する斑点米の混入による落等も見られており、病虫害防除の指導を行っているものの、年によっては被害が大きくなっている状態である。

（事業内容）

色彩選別機の整備により、白未熟粒のほか、カメムシによる斑点米等の着色粒を除去することで品質を向上させる。

また、「ヒノヒカリ」から、高温に強く、1等米比率の高い県育成品種「おいでまい」の転換を図るとともに、田植え適期マップを利用した適期栽培の推進等を行うことにより、産地の発展を目指す。

施設整備計画

※添付書類：写真

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
産地管理施設	1,070	2,147	35,595,000	16,950,000	産地管理施設 ・色彩選別機 一式

期待される効果の概要

項目	24年度 (現状 値)	25年度 (実績 値)	26年度 (実績 値)	27年度 (実績 値)	27年度 (目標 値)	概要
1等米比率の割合の増加	9.7%	59.0%	51.9%	44.4%	45.3%	1等比率の割合を35.6%増加
高温耐性品種の作付割合の増加	0.5%	43.5%	41.6%	43.1%	43.5%	高温耐性品種の作付割合を43.0%増加

* 事業実施主体の評価

県産「おいでまい」が米の食味ランキングにおいて、25年産に続き最高評価の「特A」を獲得したことを踏まえて、実需評価が高まり販売促進につながりました。米の生産数量目標の配分が前年対比0.9%減（換算面積14.3ha）の減となったことから、「おいでまい」の作付け割合は43.1%と昨年を1.5%上回りましたが、目標達成率は99.0%にとどまりました。

また、平成27年産は、8月下旬の出穂期以降、天候不順（極端な低温、日照不足など）が続き、登熟が進まず、また10月の寡雨で結果的に早期落水となり、充実度や青未熟などで落等し、高温登熟性の高い「おいでまい」の品種特性が生かされず、早短期水稻も含めた一等米比率は、26年産より7.5%低い44.4%にとどまりました。【香川県作況指数94】

以上の結果を踏まえ、今後は更なる推進指導體制の強化や適宜、的確な情報提供を図り、作付け拡大及び高品質安定生産と色彩選別機の有効利用による品質の向上を図ります。

【綾川町】

町単独で、出穂期防除薬剤の助成措置を講じており、今後とも関係機関と連携し、高品質米の生産に向けた支援を行います。

平成26年度強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
善通寺市 (高松市)	善通寺・ 高松地区	農業生産法人 株式会社キウイベリージャパン	平成26年度

事業計画の概要

(課題)

キウイフルーツのうち、県オリジナル品種は、一般に流通する「ヘイワード」に比べて食味が良好であるため、百貨店や果実専門店など実需者の評価が高く市場等から増産を要請されている。

しかし、キウイフルーツ栽培における調整出荷及び貯蔵作業は、全労働時間の約2割を占めるほか、整枝・せん定時期と重複するため、規模拡大する上での課題となっている。

さらに、生産者毎の調整・出荷及び貯蔵作業は、果実品質が不揃いとなり、県オリジナル品種のブランド化を図るうえでの課題となっている。

こうした中、大規模専業経営を志向する農業生産法人等が「株式会社キウイベリージャパン」を平成25年9月に設立し、「さぬきキウいっこ」など香川県オリジナル品種を中心として、栽培技術の統一による品質向上と安定生産、集出荷の一元化による有利販売や生産拡大に取り組むこととなった。

(事業内容)

株式会社キウイベリージャパンが、構成員である農業生産法人及び農家が生産したキウイフルーツを、一元出荷したうえで、共同選果、低温貯蔵、追熟処理並びに一元出荷するため、キウイフルーツの集出荷貯蔵施設(選果場、選果機、予冷库並びに付帯施設)を整備し、キウイ産地の発展を目指す。

・集出荷貯蔵施設の整備により、選果・貯蔵・追熟並びに出荷作業を省力化することで、オリジナル品種の生産規模を拡大する。

・県オリジナル品種のうち、高品質果実を香川県の果実ブランド認証制度を活用し「さぬき讚フルーツ」として出荷し、ブランド化を推進する。

施設整備計画

※添付書類：写真

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
キウイフルーツ 集出荷貯蔵施設	10.36	10	64,039,680	29,648,000	選果場建屋 選果機 2条 予冷库 1基 付帯施設

期待される効果の概要

項目	25年度 (現状値)	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	概要
ブランド品の出荷割合の増加	81.3%	83.1%	91.6%	91.3%	ブランド品出荷割合を10%増加
振興品種の栽培面積割合の増加	92.4%	95.9%	96.1%	98.5%	振興品種の栽培面積割合を6.1%増加

強い農業づくり交付金

【20,785(23,085)百万円】

対策のポイント

国産農畜産物の安定供給のため、生産から流通までの強い農業づくりに必要な共同利用施設の整備等を支援します。

<背景/課題>

- ・「強い農林水産業」を実現するため、生産基盤の整備により、農業の収益力等を強化することが喫緊の課題です。
- ・このため、消費者・実需者の需要に応じて、国産農畜産物を安定的に生産・供給する産地体制等を構築する必要があります。

政策目標

- 指定野菜の加工・業務向け出荷量を39%増(平成37年度(対平成25年度比))
(80万1千トン(平成25年度)→111万6千トン(平成37年度))
- 1中央卸売市場当たりの取扱金額を8%増(平成32年度(対平成25年度比))
(585億円(平成25年度)→632億円(平成32年度))

<主な内容>

1. 産地の収益力の強化とリスクの軽減

高付加価値化や生産コストの低減など、産地の収益力強化や合理化を図る取組に必要な共同利用施設の整備や再編を支援します。

また、「攻めの農業」の実現に向け、新品種・新技術等を活用した「強み」のある産地形成、集出荷・処理加工施設等の再編合理化及び次世代施設園芸の地域展開について、優先枠を設置することにより、積極的に支援します。

〔優先枠の例〕

- ・産地における新品種の種苗確保に向けた生産体制の整備
- ・コスト低減に向けた乾燥調製施設等の再編
- ・地域エネルギーと先端技術を活用した大規模な高度環境制御型栽培施設等の整備等

2. 安全で効率的な流通システムの確立

食料の安定的な供給体制等を確保するため、各卸売市場が経営展望に即して行う産地や実需者との連携、品質管理の高度化等に資する施設の整備を支援します。

〔 交付率：都道府県へは定額(事業実施主体へは事業費の1/2以内等)
事業実施主体：都道府県、市町村、農業者の組織する団体、事業協同組合等 〕

(関連対策)

農畜産物輸出拡大施設整備事業 平成27年度補正予算額 4,300百万円
農畜産物の輸出の拡大に必要な共同利用施設や卸売市場施設の整備を支援します。

〔 交付率：都道府県へは定額(事業実施主体へは事業費の1/2以内等)
事業実施主体：都道府県、市町村、農業者の組織する団体、事業協同組合等 〕

お問い合わせ先：

1の事業	生産局総務課生産推進室	(03-3502-5945)
2の事業	食料産業局食品流通課	(03-6744-2059)
関連対策	生産局総務課生産推進室	(03-3502-5945)

平成28年度強い農業づくり交付金の概要（三豊市：水稲・小麦の産地管理施設）

1 事業概要

- 1) 市町名（地区名） 三豊市（山本・豊中・財田地区）
- 2) 事業実施主体 香川県農業協同組合
- 3) 施設整備の概要

品目	受益戸数 (戸)	受益面積 (ha)	処理量 (トン)	事業内容	事業費 (円)	
					国費	自己資金
水稲	1,861	803	1,665	産地管理施設 色彩選別機 (処理量 4,200kg/h)	57,261,600	32,077,600
小麦		100				

2 産地の概要及び産地が抱える課題

- 山本・豊中・財田地区は、三豊市の中部から南部に位置し、米麦の他に、ぶどう、ブロッコリーなどが作付されており、米麦と園芸作物の複合的な経営が多く行われている産地である。
- 水稲については、近年の生育期間中の高温傾向により、主力品種である「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」で白未熟粒が多発し、品種低下が問題になっている。平成20年～26年度における1等比率平均は0.7%と県平均20.1%より低い状況である、1、2等の格差は60kgあたり600円となっており、落等は生産者の収入減少に直結するため、品質の向上が求められている。
- また、山間部では、カメムシの多発に起因する斑点米による、落等も見られている。
- 麦については、異種穀粒の混入や面積拡大に伴う防除の履行率や天候の理由により効果が低下していることに起因した雑草種子の混入が課題となっており、実需者からもこれらの除去が求められている。

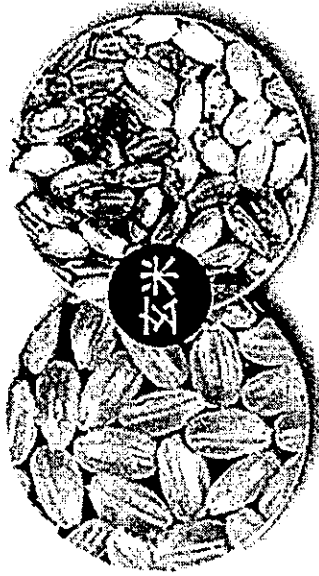
3 事業内容の概要について

(1) 導入機械：色彩選別機

(2) 導入機械の概要：

水稲の場合は主に玄米からカメムシ被害粒や白未熟粒等を、麦の場合は混入した雑草種子等をエアで吹き飛ばすことにより除去する機械。

色彩選別機の導入により、被害粒等を除去することにより、品質向上を図る。



良品

不良品



良品

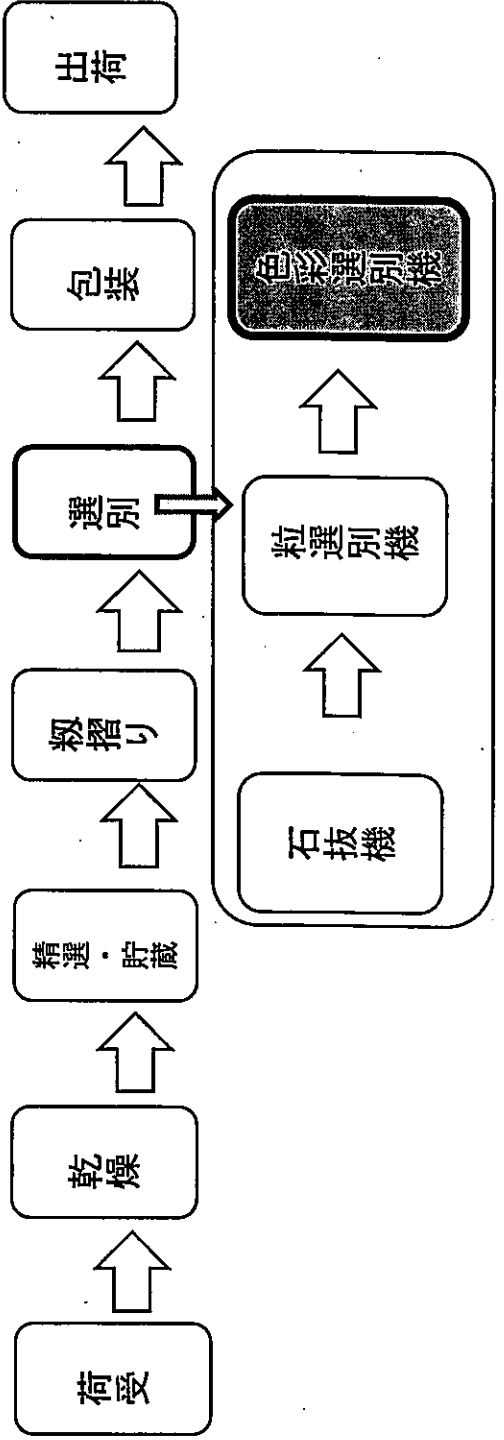
不良品

水稲（うるち米）のサンプル

小麦のサンプル

<参考>

カントリーエレベーターの主な工程



4 成果目標の基準と増減率

項目	増減率	目標設定の考え方	現況値の内容
1 事業実施地区 における1等 比率 (水稲)	現状(26年) 0.7% 目標(30年) 17.5% 【増減率】 16.8%増	① 適期栽培の推進等による良品質米生産を実施する。 ② 色彩選別機を整備し、白未熟粒・着色米等を除去することにより、品質の向上を図る。 ③ 色彩選別機の導入により得られた情報(被害粒の発生率等)を栽培及び防除技術に反映・活用させる	【平成20～26年における7中5平均】 H22年及びH26年を除く 1等米の数量の平均(12,750kg) / 全体数量の平均(1,775,390kg) 〈参考〉 各年産における1等比率 (H20)0.5% (H21)0.9% (H22)0.1% (H23)0.2% (H24)0.9% (H25)1.2% (H26)1.6%
2 事業実施地区 における1等 比率 (小麦)	現状(26年) 82.0% 目標(30年) 97.0% 【増減率】 15.0%増	① 適期防除の推進により、雑草種子の混入率を低下させる。 ② さらに、色彩選別機による異種穀粒や雑草種子の除去により、品質の向上を図る。 ③ 色彩選別機の導入により得られた情報(雑草種子の混入率)を栽培及び防除技術に反映・活用させる	【平成20～26年における7中5平均】 H22年及びH23年を除く 1等麦の数量の平均(205,314kg) / 全体数量の平均(250,314kg) 〈参考〉 各年産における1等比率 (H20)0.0% (H21)100.0% (H22)0.0% (H23)100.0% (H24)100.0% (H25)100.0% (H26)100.0%